

平成22年度歴史文化館の活動計画

■教 育

1. 自校教育（自校史教育）
 - ①「人間になろう」に関する基礎資料の収集及びデータ化（自校教育の活用基礎資料の作成）
 - ②幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学における自校教育導入の検討
 梶山歴史文化館Webサイトの活用を検討
 - ・文化情報学部1年生プレゼミ（図書館ツアーに歴史文化館見学を組み込む）
 - ・各学部初年時教育の一環として、プレゼミ等の最初の時間に歴史文化館見学ツアーの検討
2. 博物館学芸員資格取得課程（大学）授業との連携
 - ①学内実習・・・展示の計画から実施までの体験実習
 歴史文化館見学、ワークシートの作成
 歴史文化館はどのようにしてつくられたのか
 - ②アルバイトの活用・・・資料の整理

■広 報

1. Webサイトからの情報発信（ニュースレターの利用）
2. 各学校の新生・保護者など対象・・・歴史文化館のパフレット配布
3. 歴史文化館ニュースの発行（年2～3回）
4. ポスターの作成と掲示
5. 同窓会との様々な連携（同窓会関係の展示コーナー設置）
6. 大学振興会、各PTAを通じた広報の依頼
 - ①機関紙への企画展や資料寄贈の宣伝記事記載
 - ②見学ツアーの実施
 5月22日（土）中・高同窓会による見学会、7月10日（土）学園同窓会による見学会
7. 各行事での見学会の実施（開館日以外についても積極的に対応していく）
 - ①キャンパス見学会、学校体験等
 - ②父母の集い、ホームカミングデイ
 - ③学会等の行事
8. 簡易的な年報の作成
9. 歴史文化館説明ガイドラインの作成
 「歴史文化館見学者への説明用」及び「各校で自校史を計画する場合の参考資料用」

■展 示

1. 企画展（年2回程度）
 - ①第3回企画展「同窓生作品展」 5月8日（土）～10月16日（土）
 - ②第4回企画展（未定／企画展募集中）
2. 平成21年度中に寄贈された資料の一部を追加展示（前畑秀子関係資料等）
3. 展示パネル等の変更箇所の見直し、キャプションの見直し
4. 「裁縫雛形」を引出し型保存兼展示ケースに入れて展示
5. 展示品一覧（配布用）の見直し

■保 存

1. 「裁縫雛形」について
 - ①555点のくん蒸処理実施（5月に実施）
 - ②研究、分類、データ化
2. 「裁縫雛形」以外の保存資料の整理
 データベース作成（保存資料台帳作成）の上、中性紙封筒に入れて保存処理実施
 アルバイトの活用、一部は画像データ化の実施
3. 掛け軸は中性紙（うす紙）に包み保存処理実施
4. 学園内刊行物の収集と整理（年代別に分けて資料を保存）

歴史文化館入場者数について

平成21年度（平成21年6月27日～平成22年3月31日）718名

平成22年度（平成22年4月 1日～平成22年6月30日）668名

編集後記

新年度に入り、いよいよソフト面（自校教育の導入、広報の展開、資料の整理、展示の工夫）の整備に着手しました。こうした活動を通じて皆様にお知らせしたい情報が蓄積していますので、今後順次掲載していきます。

歴史文化館ニュース 第3号

発 行 日 2010（平成22）年7月30日

編集・発行 梶山歴史文化館
 名古屋市千種区星が丘元町17番3号
 TEL 052-781-1186（代）

編集担当者 梶山美恵子 村瀬 輝恭 大浦 詔子

歴史文化館ニュース 第3号

2010. 7. 30

梶山歴史文化館オープン2年目を迎えて 梶山歴史文化館 館長 梶山美恵子

昨年6月末にオープンして以来1年余、多くの方々が来館されました。この4月からは特に、大学の先生方が学生と一緒に来られたり、プレゼミで利用されたり、テーマを設けて学生にレポートを書かせたりするなど、大学での利用が増えてきています。

館内はこの1年でさまざまな改善ができました。同窓生の方の寄付によって、従来の雛形展示ケースの下部に引出し型の保存兼展示ケースを加えることができ、多くの雛形を見ていただけるようになりました。旧家政学部同窓会（ふじみ会）からは展示品の寄贈をいただきました。また歴史文化館のホームページも4月から立ちあがり、順次内容を追加しています。さらに「雛形研究会」が新たに始まりました。

文化展示室の企画展は、第一回はオープン記念として「梶山正式・今子の趣味の世界」、第2回は大学60周年記念として「大学開学60周年記念写真展」、第3回はこの5月から「同窓会作品展」となっています。

このように関係の方々のご協力によって梶山歴史文化館は少しずつ前進しています。

＜「ふじみ会」から、木彫りの少女像＞

梶山女学園大学は家政学部から始まりました。「梶山女子専門学校」が大学に昇格したのは昭和24年。山添キャンパスでスタートした家政学部は昭和37年星が丘に移転し、同年、「第14回日本家政学会総会」が開催され、以後全国の家政学の中核大学として発展することになりました。特に東海地方での家庭科教員や栄養士になった卒業生の数は他の大学を圧倒しています。このように梶山女学園大学の基礎を作った家政学部の同窓会（ふじみ会）から当館に、陳列ケース及び「ふじみ会」の資料、そして梶山の制服であった袴姿の木彫りの少女像（日展作家・山下清作）が寄贈されました。少女が抱えている「富士見」の文字は、創設者梶山正式氏の直筆を元に彫られたものです。



<「雛形研究会」の立ち上げ>



当館は500点を越す雛形を所蔵しています。創設者夫妻が学んだ東京裁縫女学校（東京家政大学）は多くの雛形を所有し、国の重要有形民俗文化財となっていることから伺えるように、その整理や保存は徹底しています。当館の雛形の整理は10数年前に分類や写真撮影などが手掛けられました（杉藤重信・中保淑子・加藤千穂・梶山藤子の各氏らによる）。その後中断されていましたが、今回新たに雛形の研究会を立ち上げることになり、6月から7人のメンバー（山口久子・加藤元子・中保淑子・寺社下珠江・加藤雪枝・米津昌子・富田明美の各氏）が研究員として委嘱され、整理・研究が始まっています。

<学芸員養成課程講座に梶山歴史文化館が参加>

学芸員養成講座担当の先生の依頼により6月15日、2コマの講座を歴史文化館のメンバーで担当しました。前半はまず3班に分かれて館内の見学、後半は教室で講義。講義の内容は、梶山歴史文化館が設立された背景・趣旨・経過などと、自校史を知ることの意味についてでした。講義の最後に梶山歴史文化館を紹介する立場で昨年度の学生が制作したワークシート作品を紹介。38名の受講者全員が、学芸員養成課程の学生らしく終始熱心に受講しました。

学生のレポートには「・・・自校を知ることの意味とは、自分が今どこで何をしているかを明確にすることである。つまり、所属による個人のアイデンティティの形成を目指したものであり、学校の理念を知ることによって自分がそこで何を学ぶのか、また歴史を学ぶことでその歴史の一部になって行く自分が何をすべきかが見えてくる。・・・」「歴史展示室」には過去の「糸菊」が展示されている。そこには全ての生徒の名前が一度は載り、自分も学校の歴史の一部になって行くことが実感できる。・・・」などと記されていて、それぞれが何かを掴んだようでした。

【文化展示室トピックス】

< 同窓生作品展 >

平成22年5月8日より文化展示室にて現在、梶山女学園同窓生による「同窓生作品展」を開催しています。絵画、書道、アートフラワー、パッチワークや染物、また同窓会の開催する「いとぎくカレッジ」において制作された干支木目込み人形、陶芸、エッグアートなども講師の先生方の作品と共に展示室いっぱいに華やかに飾られています。

兵庫・大阪・神奈川など遠方からこの作品展のために出展された方もあり、二科展や日展の入選作なども含まれ、大変見ごたえのあるものとなっています。

同窓会作品展の展示期間は10月16日までとなっています。



【歴史展示室トピックス】

< 雛形の引出し型保存兼展示ケース >



ひときわ目を引く背の高いケースが歴史展示室の中央にあります。雛形の引出し型保存兼展示ケースです。雛形とは、被服の実物作品を製作する前にあらかじめ布の見積り方、裁ち方、しるしのつけ方、縫い方を学ぶための見本や標本の事です。実物の1/3の寸法にすることにより難易度も増し、裁縫技術の向上にも役立っていました。雛形は、東京家政大学の創設者であり、本学園創設者の梶山正式・今子両氏の師である渡邊辰五郎先生が、裁縫の知識・技能を伝授するために考案されたと言われています。雛形標本は、今日では大変珍しい伝統衣服の形態・構成・素材などを正確に現している被服史的にも貴重な資料になります。現在、梶

山歴史文化館には500点を越す雛形があり、名古屋市博物館にも当時の生徒作品（卒業制作品）が文化資料として収蔵されています。

平成22年4月にケース下部を引き出し状の展示保存棚へと改良され、着物や袴だけでなく、セーラーカラーの海水浴着や色彩豊かな吾妻コートや女兒服など数多くの雛形を見ていただけるようになりました。また、雛形に押された「名古屋裁縫女学校」の公印も必見で、雛形の一針一針から当時の学生の勉学に勤しむ姿が窺い知れます。



< ジャンパースカート >



1926年（大正15年）、梶山女学園に初めて洋装の制服が制定されました。これは前年の学園創立20周年記念展覧会を開催した際、全国の高等女学校の校服出品およそ80点の中から生徒による投票で最多票を獲得した女子学習院の校服を原案として作られました。ジャンパースカートを基とし、夏は綿ポプリンの七部袖のセーラーカラーのブラウスで、冬は紺サージのジャケットと黒い帽子を着用しました。また長い髪を2つに分けて三つ編みをする、いわゆるおさげ髪が流行したのもこの頃です。（同時期に大正ロマン画家で知られる竹久夢二の「秋の雲」にもおさげ髪をした少女が描かれています。）

「歴史の窓」 大正時代における著名人の来園 <岸田劉生（画家）と芥川龍之介（作家）>

岸田劉生は「麗子像」などで有名な画家であり、大正10（1922）年1月29日に当時の梶山高等女学校講堂（現在の中区泉1丁目で当時は富士塚町）で、名古屋基督教青年会（YMCA）主催の「装飾と模倣」と称する講演会があり、ここで講演を行いました。

これについては、本学園の機関紙である「糸菊」にも記録がなく、また、過去に編纂された本学園の50年史、75年史、100年史編纂の折にも確認されなかったできごとでした。平成19年9月15日～10月28日に刈谷市美術館で開催された「画家・岸田劉生の奇跡」「岸田劉生と愛美社の画家たち」という展覧会の事前準備にあたり、同美術館より情報提供を受けて判明したものです。

雑誌「郷土美術」に連載された岸田劉生に関する名古屋での活動状況や当時の新聞「名古屋新聞」（大正10年1月27日付）に記載された「梶山高等女学校岸田劉生美術講演会」の広告の複写物などにより確認を行いました。

この時は、洋画壇で有名になり、のちに挿入絵でも活躍した木村荘八も講演会に参加しています。

一方、芥川龍之介は「羅生門」を始めとした数々の作品を世に送り、文壇界の頂点に位置づけられる作家であり、大正11（1923）年1月28日、同じく梶山高等女学校講堂で「文芸講演会」と題して講演を行いました。同時に、菊池寛、小島政二郎といった有名作家も講演を行っています。

この講演会については文学界の間でも早くから知られていましたが、本学園では「梶山女学園75年史」（昭和55年刊行）編纂の折、詳細な調査が行われ、講演会の全貌が明らかにされました。

当時の新聞「新愛知」（大正11年1月28日付）に「本社後援の文芸講演会：桜楓会の主催の下に廿八日梶山女学校で」という見出しの記事が掲載されています。また、講演内容については「眼中の人」（小島政二郎／岩波書店／昭和30年）、「芥川龍之介」（小島政二郎／読売新聞社／昭和52年）に詳しく記されています。